

文教大学
情報学部メディア表現学科

2025 年度
竹林紀雄ゼミナール
卒業制作展

2026 年 2 月 20 日
シアター・イメージフォーラム

Thank you for coming and watching...!!

TIME TABLE

13:45 開場

14:00 上映開始

15:30 上映終了

16:00 閉場

観覧についてのご注意

上映中はお静かに！

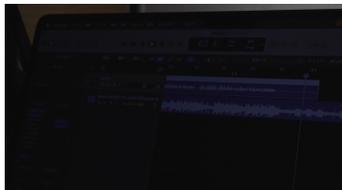


携帯電話はマナーモードのご協力をお願いいたします

19期生 映像作品

HeartBeat

赤尾関 涼生



音楽は、夢じゃなくて逃げ道だった。
学校に行けなかった日々を支えてくれたのは、言葉とビートだった。
救われた側だった彼は、今、誰かを救う音を鳴らそうとしている。

えいが

大森 優輝



光があっても、影は落ちない日がある。
終わったはずの物語を壊しながら、揺れ続ける像を見つめる。
これは回復の記録ではなく、在り続ける「我」をめぐる映像。
映画と影我のあいだに残ったものを、「えいが」と名付けた。

invisible

攪上 緋音



あなたと私が違うこと。
好きな食べ物、好きな音楽、好きな色。
私に聞こえる音とあなたに聞こえる音。
違うことは怖い。みんなと同じがいい。けど、ひとつも同じことなどない。
全部あなたにしかない
素敵な、大切な、たからもの。

生きるとか死ぬとか、そういうこと。

蒲原 祐香



気が付いた時には抑うつでした。
社会人になる前に、希死念慮と区切りをつけようと制作を始めました。
もっと復讐と絶望に満ちた作品になると思っていたのですが、自分の死生観と向き合う作品となりました。
私も貴方もこれからの人生が幸せと希望に満ちますように。

Trust the Dice

近藤 悠仁



ゴールはまだ見えない。
それでも前に進むしかない——。
人生のすごろくを描き、迷いながら歩む自分の軌跡を、Da-iCEの音楽や過去の記憶、日常の風景と映像で紡いだセルフドキュメンタリー。

寂しくない

清水 空



生きる事は矛盾や曖昧の中にある。
そんなもどかしさや本音を、旅の道中、見知らぬ他人にこぼせてしまうのは、自分の物語の外にいる存在だからであろう。
そんな一瞬の安らぎを抱え、また戻っていく。

衝動

鈴木 海澄



本作は、動画と写真を融合し、主人公の内面の揺らぎを描いた映像作品です。
日常的な行為が次第に歪み、衝動的な動きへと変化していく過程を、ストップモーションを用いて表現しました。

蒸発

山形 祥真



雨の大学で再会した二人の友人。
就職が決まった健吾と、まだ決められない雄太。
「数字」に追われる時間の中で、思わずぶつかり、何も解決しないまま同じ方向へ進んでいく。
決断と未決のあいだを描く作品。